

千葉市感染症発生動向調査情報

2014年 第47週 (11/17-11/23) の発生は？

1 定点報告対象疾患(五類感染症)

報告のあった定点数		47週	46週	45週	44週
上段:患者数 下段:定点当たりの患者数	小児科	17	18	18	18
	眼科	4	5	5	4
	インフルエンザ*	27	28	28	28
	基幹定点	1	1	1	1

「定点当たりの患者数」とは
報告患者数/報告定点数。

定 点	感 染 症 名	千 葉 市					千葉県
		注意報	11/17-11/23	11/10-11/16	11/3-11/9	10/27-11/2	11/10-11/16
			47週	46週	45週	44週	46週
小児科	RSウイルス感染症		8	11	4	10	131
			0.47	0.61	0.22	0.56	0.98
	咽頭結膜熱		1	0	3	0	33
			0.06	0.00	0.17	0.00	0.25
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	54	47	25	35	294
			3.18	2.61	1.39	1.94	2.21
	感染性胃腸炎		150	112	62	71	806
			8.82	6.22	3.44	3.94	6.06
	水痘		13	15	5	16	123
			0.76	0.83	0.28	0.89	0.92
	手足口病		21	21	18	13	144
			1.24	1.17	1.00	0.72	1.08
インフル	伝染性紅斑		3	1	0	5	40
			0.18	0.06	0.00	0.28	0.30
	突発性発しん		11	14	16	9	72
			0.65	0.78	0.89	0.50	0.54
	百日咳		1	0	0	0	0
			0.06	0.00	0.00	0.00	0.00
	ヘルパンギーナ		0	0	3	1	10
			0.00	0.00	0.17	0.06	0.08
	流行性耳下腺炎		1	1	6	3	64
			0.06	0.06	0.33	0.17	0.48
	インフルエンザ*(高病原性鳥インフルエンザを除く)	○	84	31	16	16	103
			3.11	1.11	0.57	0.57	0.49
眼科	急性出血性結膜炎		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
基幹定点	流行性角結膜炎		2	3	1	0	12
			0.50	0.60	0.20	0.00	0.35
基幹定点	細菌性髄膜炎 (髄膜炎菌性髄膜炎を除く)		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	無菌性髄膜炎		0	0	0	0	1
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.11
	マイコプラズマ肺炎		2	0	0	0	3
基幹定点			2.00	0.00	0.00	0.00	0.33
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)		1	0	0	0	1
			1.00	0.00	0.00	0.00	0.11
基幹定点	感染性胃腸炎 (ロタウイルスに限る)		0	0	0	0	0
			0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

★★:流行中 ★:やや流行中 ◎:増加 ○:やや増加 →:変化なし ↓:やや減少 ↓↓:減少

2 全数報告対象疾患(7件)

病名	性	年齢層	診断(検査)方法	病名	性	年齢層	診断(検査)方法
結核	男性	60歳代	画像診断	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	男性	50歳代	菌の検出・薬剤耐性の確認及び起病因菌の判定
結核	男性	70歳代	IGRA検査等				
結核	女性	80歳代	病原体等の検出	侵襲性肺炎球菌感染症	女性	10歳未満	病原菌の検出
つつが虫病	男性	50歳代	血清抗体の検出	梅毒	男性	70歳代	血清抗体の検出

・結核3件(230)、つつが虫病1件(1)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症1件(2)、侵襲性肺炎球菌感染症1件(10)、梅毒1件(17)の報告があった。

※ 累積件数は速報値であり、データが随時訂正されるため変化します。

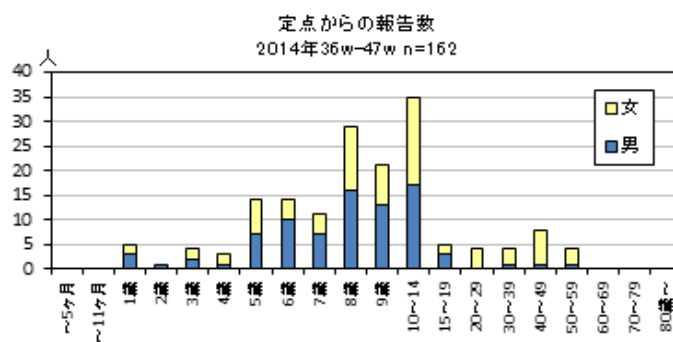
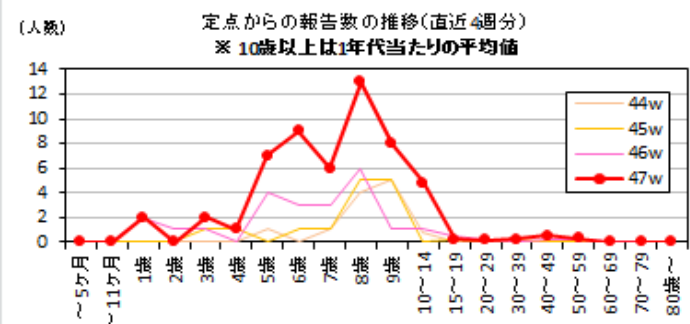
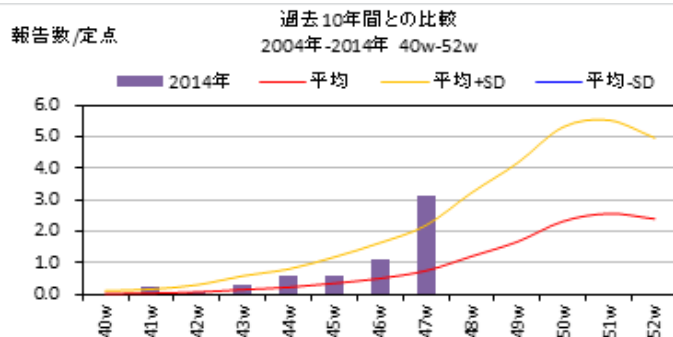
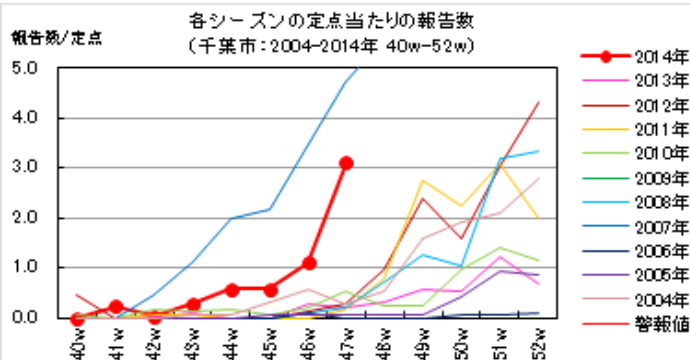
定点当たり報告数 第47週のコメント

<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎> 前週より更に増加し3.18となった。過去10年の同時期と比べると最多。
<インフルエンザ> 前週より増加し3.11となった。過去10年の同時期と比べると多い。

トピック

<インフルエンザ>

2014年の全国レベルの第46週現在は過去7年の同時期と比べると平均レベルとなっています。都道府県別では、東北地方の一部や関東地方で上昇しており、山形県、大分県、岩手県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより多めとなっています。千葉市の第47週現在は前週より増加し3.11となりました。過去10年の同時期と比べると多くなっています。区別の発生状況では、緑区(6.8/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く、1年代あたりでは8歳及び9歳で最も多く報告されています。今シーズンである2014年第36週から第46週現在の累積報告数(n=162)によると、性別では男性が51.2%(83名)、女性が48.8%(79名)で、年齢階級別の1年代あたりでは8歳(17.9%:29名)、9歳(13.0%:21名)、5歳及び6歳(8.6%:それぞれ14名)の順に多くなっており、全体に占める10歳未満の割合は71.8%(102名)となっています。



<A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

2014年の全国レベルの第46週現在は過去7年の同時期と比べると最多となっています。都道府県別では、岩手県、北海道、新潟県の順に多く報告されています。千葉県は、全国レベルより若干多めとなっています。千葉市の第47週現在は前週より増加し3.18となり過去10年の同時期と比べると最多となっています。区別の発生状況では、中央区(5.5/定点)で最多で同区の10歳代前半で最も多く報告されています。今シーズンである2014年第36週から2014年第46週現在の累積報告数(n=307)によると、性別では男性が52.1%(160名)、女性が47.9%(147名)で、年齢階級別では6歳(17.3%:53名)、4歳(14.3%:44名)、5歳(12.4%:38名)の順に多くなっています。

